

愛国百人一首

戦時中、昭和十七年、陸軍の情報局から「愛国百人一首」が発表されたのでした。古代からの和歌の中から愛国的な和歌が百首選ばれ、小学校や中学校の生徒たちはこれを色紙や短冊に書いたものでした。ところが暫くすると歌の順序を変えたり、中身を変えたのが発表になるのです。それが三度変わったのです。二度目のときは、変えた理由を発表していたのですが、三度目は黙って変えているのです。作者の順位が年代別に変わるのはなんでもないので、中味が変わると絵がかわるのです。濁って発音するかどうかも絵が変わるのです。それで朝日新聞に投書したのです。せつかく国民に発表しながら二度も三度も順位や中味を変えるのはよくないといって投書したのです。朝日新聞社はそれを取りあげ掲載していました。後で謝礼といって金二円送って来たのですが、何かに使ってほしいといつて返したのです。

愛国百人一首は最初はインツクキまで使って書いていたのですが、後でほとんど基本文字だけで読めるように書きなおしました。これを献上したいと思い、きれいな紙に書いたり、また展示用としていろいろな大きさに書いたりしました。ことに模造紙半分ぐらいの大きなものに書いたものもあり、これを百枚展示するにはよほど広いところでないといけない。愛国百人一首などというものは日本よりほかにはないので、いろいろな大きさに書いたものはみな大切に保存してあります。